

2018年6月6日

株式会社 FUJI

## ELSによるSMTラインにおけるM2M連携のための標準通信規格制定について

株式会社FUJIは日本ロボット工業会（以後 JARA と表記）実装機器通信規約標準化分科会(以後 ELS と表記)のメンバーとして実装ラインにおける M2M 連携の通信規格の標準化を進めてきました。今後、SMT 分野における JARAS 1014 規格の導入を推進していきます。

平成30年6月1日、ELSにより標準通信規格「JARAS 1014」が発表されました。

一般的な表面実装基板製造ラインは異なるメーカーで構成されることが多く、ライン全体での一貫した情報管理に多くの手間とコストが発生していました。

この状況を解決するため、後掲の企業20社が集まり、ELSとして共同で規格の策定・統一に向けて検討を続け、JARAS 1014に纏め上げました。

今回制定したJARAS 1014は、SEMIにより制定された通信仕様 SEMI A1 HC に準拠し SMT 分野向けとして拡張した規格です。これにより、お客様は自由な実装システムの構築、一貫した情報管理、そして変種変量生産への迅速対応が可能になります。



ELS 参加企業20社（50音順）:

オムロン株式会社 小松電子株式会社 株式会社サキコーポレーション 千住金属工業株式会社 株式会社タムラ製作所  
株式会社ナガオカ製作所 名古屋電機工業株式会社 日本ミルテック株式会社 パナソニック株式会社  
マイクロニックテクノロジーズ株式会社 マランツエレクトロニクス株式会社 武蔵エンジニアリング株式会社  
ヤマハ発動機株式会社 ワイエス株式会社 CKD株式会社 株式会社FUJI（旧 富士機械製造株式会社）  
JUKI株式会社 KOH YOUNG TECHNOLOGY INC  
PARMI Corp Test Research, Inc.

以上